



栗 山



学 校 だ よ り
学校運営協議会だより

校訓：誠実・自律・調和

令和5年4月11日

第1号



八王子市立浅川中学校

『もっと優しく、もっと強く浅川中』

～優しさは「調和」、求める強さとは「自律」と「踏み出す勇氣」～

校長 市場 陽一郎

令和5年度の浅川中学校は初沢山、栗山のやわらかな緑に包まれながら、新入生123名を迎え、343名の生徒、41名の教職員で穏やかにスタートしました。全校で集まる機会が多い4月、進級した上級生の自律した姿から「誇れる上級生」となる自覚と決意を感じています。新入生は目の当たりにした上級生の姿から素直に学び、共に学び成長して行くものと期待しています。

本校は今、生徒と教職員が保護者、地域の方々に支えていただきながら、穏やかに学び合える学校となっています。目指す生徒像は「人と人との関わりから学び合い、社会に貢献できる生徒」です。本校の校訓にもある自律と調和を意識し、人への優しさを大切に、関わって学び成長する生徒を理想としています。これまでの「自己指導能力育成」と「学び合う授業（特別活動）」への取り組みにより、自分事としてものごとを考える生徒が増え、徐々に「責任ある行動（自律）」、「違いを認めた合意形成（調和）」に取り組めるようになってきています。しかし、時に相手や周囲の状況を考えずに行動し指導される場面を見聞します。また、自分から一歩踏み出すことをためらい、自分の力を伸ばし切っていないように感じる生徒もいます。私は「もったいない、浅川の生徒たちはもっとやれるぞ」といつも思っています。

そこで、今年度はさらなる進化を目指し『もっと優しく、もっと強く浅川中』をスローガンに掲げることにしました。自らの課題や特性と向き合い、より前向きな気持ちで生活する「強さ」を生徒たちに求めていきます。ここで求める強さとは「自律」の心です。また、少しの勇氣を持ち、自ら一歩踏み出す主体的な強さです。自分のことは自分で行う強さ、困った時には勇氣を出して誰かに聴く強さです。

始業式で生活指導主任は次のように生徒たちに語りかけました。

「新年度は自分を変える（成長させる）チャンスの時。変わろうとする勇氣、

自分はこうなりたい、こういう人になりたいと思う強い意志が人を変えるのです。

その強い意志と行動力をみんなが発揮してほしいと思います。」

私たち浅川中学校の教職員の願いである「一歩前に踏み出す勇氣と行動」への期待を込めた言葉でした。中学卒業時の進路決定は勿論、私たちの人生は選択の連続です。自分の強い意思と行動する力が必ず必要になります。今の浅中生の優しく素直で、穏やかに学び合う姿は素敵です。その上に、さらに自己を律する強さと、前に踏み出す強さをこの浅川中学校で身につけさせたいと考えています。



入学式：誇れる上級生から新入生への歓迎の合唱

アフターコロナの時代に入り、できる限りコロナ前の学校の状態に戻して行きます。保護者、地域の皆様と連携、協力しながら優しさで生きる強さをもった人間に育つように教育活動を進めてまいります。今年度もどうか浅川の子供たちが明るく、真っ直ぐ、そして強く伸びて行けるように、温かい見守りとご支援をよろしくお願いいたします。



令和5年度 浅川中学校学校経営計画

はじめに

目指す生徒像は「人と人との関わりから学び合い、社会に貢献できる生徒」である。本校の校訓にもある自律と調和を意識し、人への優しさを大切に、関わって学び成長する生徒を理想としたい。より良い人間関係の構築を行い、生徒が主体的に活動する姿が見える学校づくりを行う。教育理念、『けじめ（自律）、学習（学び合い）、仲間（人権意識）、感動（気づき）』を忘れることなく、この「感動」を学校全体で感じ、誇りとし、更なる成長、改善への力としていく。

★校訓★ 『誠実』・『自律』・『調和』（平成29年度に策定）

1 教育目標

自ら、確かな学力、豊かな人間性や社会性、たくましい体を主体的・創造的に育み、その能力等を、自己実現及び社会の発展のために発揮できる生徒を育成する。

◎ 自ら学び考え行動する生徒 ・ ・ ・ ・ ・ 【今年度の重点】

- 豊かな心を持ち、思いやりのある生徒
- 心身ともに健康で、たくましく生きる生徒

2 目指す生徒像

『人と人との関わりから学び合い、社会に貢献できる生徒』

- ◎自律と調和を意識し、人への優しさを大切にする生徒
- ◎関わって学び、成長する生徒
- ◎常に当事者意識を持ち、自分事としてものごとを考える生徒

3 目指す学校像

『共に学ぶ、もっと優しい学校』地域運営学校として保護者、地域に信頼される学校

学校経営の基本方針—経営のスローガンおよび指導方針—

愛情・誠実・使命感をもって行動し、『共に学ぶ、もっと優しい学校』を目指す。

人と人とのつながりを大切に、認め合う学級、学年経営を行う。具体的な方策として「学び合い、聴き合う授業づくり」を進める。生徒一人一人の学力を保障することはもちろんであるが、互いに認め合い高め合うという人権尊重の精神を毎日の授業を通して浸透させることにより、いじめ、不登校はもとより生活指導上の問題発生を予防する。同時に、自らの課題や特性と向き合い、より前向きな気持ちで生活する「強さ」を生徒たちに求めたい。そのために教職員同士や保護者、地域関係者との交流により教職員の指導力向上や地域との連携を図る。

今年度の指導の重点

『自律した主体的な生徒の育成と、優しく学び合う授業づくり』

1. 自律した主体的に行動できる生徒の育成のために

今年度は「あいさつ」を主体的な行動の第一歩と捉え、「あいさつ」の励行を生徒の主体性を伸ばす「キーワード」として強く意識して取り組む。

◎自律のための自己指導能力育成と温かい人間関係

- ・「みそあじは運動」を優しい行為として捉え、全教職員が共通認識を持ち指導、支援する。
「み」自律を促す服装指導・・・服装は勿論、言葉遣いや立ち居振る舞いもみだしなみ。
「そ」そうじは誰かのために頑張る優しい行動。4 人班で責任ある行動を。
「あ」あいさつは相手を認め、思いを伝える優しい、主体的で前向きな自分をつくる行為。より良い人間関係の構築につなげ、いじめや不登校の防止に。
「じ」時間は皆のもの。時間を守るのは周囲への優しい行為。ノーチャイム始業の徹底。
「は」話を聴くことも相手を認め、思いを受け止める優しい行為。聴き合う関係づくりを。
- ・生徒理解の上に立った、生徒の人格を大切にする温かい指導、支援を徹底する。
- ・教師が伴走者やファシリテーターとして生徒の自己決定を促し指導、支援を行う。
- ・毎週水曜日5校時を「生徒理解の時間」と設定し、いじめ対策、不登校対策への取り組みを全教職員で行う。
- ・自己肯定感を高め、前向きな学校生活を送らせるために、『もっと優しく、もっと強く浅川中』を合言葉に、授業、学校行事、生徒会活動、委員会活動や部活動などあらゆる場面で生徒に達成感をもたせリーダーとフォロワーの育成に取り組む。特に、生徒会活動、体育祭、音楽祭で生徒の力を発揮させ、学校全体の主体的な活動につなげていく。
- ◎特別支援校内委員会で生徒への支援の方向性を共有確認し、丁寧に指導支援する
くりやま学級との連携で支援の必要な生徒を支えていく。

2. 学び合い、高め合う魅力ある授業づくり <「学びの共同体」の理念を基に>

- ◎ グループ学習を柔軟に取り入れ、協働的な魅力ある授業を展開する。
 - ・教師の授業力を向上させるため、年3回の学び合う授業づくり授業研究協議会を持つ。
 - ・積極的に放課後学習、補習等を行い、学力に不安をもつ生徒を支援し学習意欲を高める。
- ◎ 学び合う授業づくり、聴き合う関係づくり（生活4人班、コの字座席）により、生徒の居場所があるクラスをつくり、関わる力を身につけさせ不登校やいじめを防止する。
- ◎ OJT推進委員会が中心となり、教職員同士の学び合いの風土を創る。

3. 地域運営学校として『地域から信頼される学校』に＜社会に貢献する意識の育成＞

- ◎学区に高尾山を持つ学校として、日本遺産高尾山学習に取り組む
 - ・日本遺産高尾山学習に取り組み、郷土を知り、考え、故郷に愛着と誇りをもたせる。
 - ・SDGsの考え方を学び、自分事として考え、行動できる生徒を育てる。
- ◎学校運営協議会、青少年対策浅川地区委員会との連携
 - ・生徒に積極的にPTA・地域行事、ボランティア活動への参加を促す。その中で地域で活躍し貢献する場や、地域の方々との関わりの中から学ぶ機会を増やす。
 - ・より地域から信頼される学校を目指し、教職員のPTA・地域行事への積極的参加推進。

4. GIGA スクール構想、ICT 機器活用に挑戦

- ◎一人一台PCの積極的活用
 - ・教科の授業や様々な教育活動の中でPC活用を実践する。
 - ・補充的学習会、朝学習や個別支援でのPC活用を実践する。
 - ・緊急事態や不登校生徒対応でのPC活用を試行する。
- ◎ホームページ、デジタルサイネージの充実と発信、校務の効率化
 - ・デジタルサイネージコーナーの充実による情報発信を行い、生徒の意欲を高める。
 - ・学校ホームページにより、地域へ学校情報を発信し開かれた学校にする。

5. 働き方改革を意識した教育活動・部活動の充実・その他

- ・定時退勤日を毎月設定。職員会議日を基本とする。（特例は管理職に相談）
- ・全ての部活動に複数顧問を配置し、生徒の活動の保障と教員の負担の軽減を図る。
- ・校則、標準服等の見直しを継続的に行う。